

マスコミ関係者の考え

臭素系難燃剤やダイオキシン類関連の報道には、私たち臭素系難燃剤メ - カ - の立場から見ても疑問に思うことが少なくない。こうしたことに関して、7月21日のこと、日本フードサービス協会の主催で、BSEに関して新聞記者、放送記者など20数名の前で、市民はなぜリスクを理解できないか、という話をし、その後、若干議論をする機会を得た。

<http://www.yasuienv.net/BSEFoodMedia.htm>

以下に、毎日新聞 生活家庭部の「小島正美」記者の講演内容が転載されているので、再録をする。

報道の実態（内幕）と対応方法（その1）

毎日新聞 小島正美記者講演より

当会{(社)日本アルミニウム協会内 「アルミニウムと健康」連絡協議会}でも、日頃マスコミ報道に疑問を持たざるを得ないことが多い。

今回は報道の渦中で活躍中の毎日新聞小島記者の講演を3回にわたって掲載する。(2005年8月の当協議会講演会)

参考になれば幸いである。なお、1/3は、以下である。

http://www.aluminum-hc.gr.jp/p_1/index2.html

なお、3回連続の公演内容の第1回は、

1. 限られた情報で判断してはいけない
2. リスク増幅効果
3. 記者の使命
4. 環境によいから植える
5. ベネフィットを知らせることも重要
6. 消費者の反応
7. ジャンク情報

早く、続きを読みたいと思っている。

以上